

守り・伝える・文化財 ②②

# 市天然記念物 糸碕神社のクスノキ

指定 昭和37年 糸碕八丁目



▲高さは30m、地面から2mの間の肥大は特に立派で、幹周りが13mもあります



糸碕神社 宮司  
竹田 襄さん  
問い合わせ先  
糸碕神社  
(☎0848⑥0102)

「市の木」に制定されています。神社の神門(市重要文化財)の外は昭和20年代まで海がもっと近かったそうです。しかし、神社のもう一つのシンボル、境内東の「御調の井」は塩分を含まない真水で、井戸から汲んだ水を神功皇后に貢ぎ奉ったとの伝承から井戸崎が転じて糸碕や御調郡の名のもとになったといわれます。神社は天平元年(729年)の創祀と伝えられます。

糸碕神社宮司の竹田襄さんは「インターネットなどで紹介され、遠くからのお客様も増えましたね。幹に手を当て、樹から元気をもらったと喜んで帰られます。昭和初めの写真と比べても旺盛な生長が分かります。生育環境を守るため、樹の近くまで車を入れないようにしています」と語ります。いろいろな時代を見続けるクスノキを眺めると、その揺るぎない姿にあやかりたいとも、たくましい生命力の余慶にあずかりたい気持ちが出て不思議です。

糸碕神社の神門をくぐると、境内の西で堂々としたクスノキの大木が迎えてくれます。市内で一番、県内でも有数のこの樹の樹齢は500年といわれ、枝の張り方も大きく、勢いは盛んです。

クスノキは別名クスともいい、全体に虫の嫌う防虫剤樟腦の香りがあり、「臭しくすし」が語源ともいわれます。日本では本州中南部、四国、九州、沖縄の温暖な地方に見られ、化学合成品と入れ代わるまでは樟腦生産のため、栽培されたこともありました。つやのある葉は冬を越し、5月ごろに一斉に新しい葉と交代。その際の黄緑の新緑は美しく、親しまれています。人里近くに多く、長生きで大きく生長するため、巨樹・

巨木といわれる中にクスノキは多いようです。楠木通り、並木通りや隆景広場などに植えられ、三原市の「市の木」に制定されています。

大規模災害時には、行政機関による活動とともに住民の皆さんによる自主的な防災活動が重要です。地域やグループで防災組織を結成し、いざという時スムーズな活動ができるよう日ごろから準備をしておきましょう。

15日(木)～21日(水)  
防災とボランティア週間

26日は文化財防火デー  
貴重な文化財を、後世に受け継いでいくためにも、皆さんの協力をお願いします。

防火のポイント  
・放火防止対策の強化  
・火気管理の徹底

消防訓練  
とき ①24日(土)②25日(日)9時～

ところ ①西福寺(西野二丁目)②東禅寺(本郷町南方)

問い合わせ先 消防本部予防課 ☎0848④5927

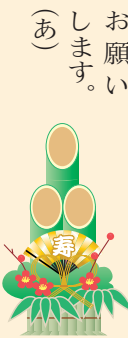
税の納期(普通徴収)

- 市県民税(第4期)
- 国民健康保険税(第7期)
- 介護保険料(第7期)
- 後期高齢者医療保険料(第7期)
- 納期限 2月2日(月)
- ※税金・保険料は納期限までに納めましょう。

今月の夜間収納窓口(19時まで)  
8日(木)・22日(木)

●三原市の人口●  
(11月30日現在)

世帯数	44,017世帯 (+278)
人口	104,275人 (-502)
男	50,075人 (-253)
女	54,200人 (-249)
( )内は前年同月との比較	



あ・と・が・き  
あけましておめでとうございます。1年の計は元旦にありとありますが、新年を迎えて、皆さんはどのような目標を立てていますか？今月号では、市民の方に登場していただいで、今年の抱負やさまざまな活動にかける思いを語っていただきました。私が取材に行ったのは、毎年12月から1月にかけて、色鮮やかな光を放つ久井のイルミネーション。主催する「冬ホタルの会」の皆さんの和気あいあいとしたようすが大変印象的でした。そして、イルミネーションでまちの活性化を図りたいという、ふるさとへの熱い思いを伺うことができました。今年も広報を通じてこうした熱い思いや楽しいイベントを紹介していきます。広報みはらをどうぞよろしくお願ひします。

資源保護のため「広報みはら」は再生紙および大豆インクを使用しています。

